2004（平成16）年6月

AICHI UNIVERSITY LIBRARY COMMUNICATIONS 2004. 6

韋編（いへん）

愛知大学図書館報

No. 29

「韋編」……文字を書いた竹や木の札を、なめし皮の紐でとじた上古の書物。

車道校舎新図書館の「私的」利用法

法学部長　加藤　克佳

1　2004年4月、愛知大学の長年の懸案であった車道再開発の目玉として、車道新校舎が開校された。この新キャンパスでは、法科大学院（ロースクール）がスタートするとともに、法学部3・4年次生、法学部2部生もここで学ぶ。その意味で、車道校舎は愛知大学の法学教育の中心となったわけである。

学生生活の大きな柱が「勉学」であることはいうまでもないが、インターネット等他の媒体の普及（情報の多様化）や社会全体の多忙化などの影響であろうか、世の中全般に活字離れが指摘されてすでに久しい。しかし、そういう風潮だからこそ、「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」という朱子の言葉の意味を再認識すべきだと思う。私自身、当時それに思い至らなかった不明を後悔するとともに、学生の皆さんには、時間的・体力的にみて最も余裕のある学生時代にこそ貪欲に読書に没頭してほしい、と期待することしきりである。たしかに、今は生涯学習の時代と言われ、勉強はいつからでも始められる。しかし、頭が柔らかい若いうちなら幾らでも吸収することができるし、少々の無理も可能である。また、勉強は一生続けるべきものである（特に専門職に就く場合）が、それでも、若いときにしっかりと蓄積しておくことは、その後の人生の確かな基盤を作る、という意味で極めて重要であろう。

2　これらを前提として、皆さんが車道校舎新図書館を利用する場合に、どのようなことを心がければよいであろうか。以下は、私が利用者だとしてどうするか（さらに、今も勉強中の一学徒としてどうすべきか）について、考えるところを書き連ねてみたい（これが、表題を、「私的（わたくしてき）」利用法とした所以である）。

まず、大学に来たときの生活の中心を図書館に置くことが考えられる。車道校舎は、比較的低層階に図書館があり、教室は比較的高層階にある。大学に来たらとりあえず図書館に立ち寄るくらいの意気込みがほしい。次に、実際に蔵書を手に取ってみる。講義やゼミで指示された書籍や雑誌等に接し、必要があれば複写したり借り出したりする。さらに、新着図書や雑誌にも目を向け、最近の動きを感じられれば文句なしである。

一方で、最近は、いわゆる電子情報がCD-ROMやオンラインで提供されており、車道図書館でもこれらの利用が相当程度可能と

なっている。これからの時代には、インターネットの活用ないしデジタル情報の検索・処理方法の修得が、卒業後どのような分野に進むにせよ、益々重要となる。しかし、それによって地道な読書や資料読みが不要となるわけでない。むしろ、情報処理自体は前提作業にすぎず、それをいかに駆使して創造的な成果を上げるかが問われる。一例を挙げれば、ゼミ報告や卒論で法的問題を扱う場合には、どれだけ関連文献や判例を収集するか自体ではなく、むしろ、それを適切に「料理」して解決策を考え出すことが期待される。そして、その際の決め手は、やはり、読書で培った論理的思考力や分析力、判断力ではなかろうか。これぱかりは「一夜漬け」は効かず、日頃の努力がものをいうであろう。

3　車道図書館は、他の2校舎の図書館に比べると、幾つかの特徴や問題点をもつ。たとえば、都心のキャンパスで早朝から夜遅くまで開館しているので、利便性が高い。また、法学部生の利用を主としているため、法学系の書籍・雑誌が中心となっている。しかし他方、皆さんがこれだけしか目にしないというのは問題である。OPACなどを用いて他校舎にある他分野の蔵書にも目を向けることを心がけてほしい。関連して、車道図書館はスペース的に狭いので、法学系の蔵書数も名古屋図書館の方が相当に多い。そこで、他校舎からの蔵書取寄せを大いに活用するとともに、実際に名古屋図書館等にも出向いてほしい。また、本図書館の蔵書増加を積極的に要望することも、皆さんに期待される。スペースや予算の制約があり難しい面もあるが、小規模なだけに、利用者の声が多く反映されるような蔵書構成や運営は十分可能であるし、図書館職員もそのために尽力して下さるであろう。

この拙文を書きながら、数年前にドイツで海外研修をしたときのことを思い出す（拙稿「ドイツの図書館と法律図書事情」本誌18号[1998年12月]2頁参照）。というのは、特に学習支援という点で、車道図書館の基本コンセプトは、私の知るドイツの幾つかの図書館と類似しているからである。ただ、決定的に違うのは、歴史のなさであり、この新しい組織・施設はまだ歩き出したばかりである。しかしだからこそ、利用者の皆さんには、これを共に育てるくらいの気持ちで愛用し、歴史作りに参画してほしいと思う。

4　終わりに、法科大学院図書室について一言する。ここは、図書館より開館時間が長く、専用机もあるなど、学生への支援をさらに徹底している。院生が目標達成のためこれを十分活用されるとともに、学部学生の皆さんには、その厳しい雰囲気を垣間見て勉学への刺激を受けることを期待したい。

車道図書館4階

法科大学院　図書室5階

旧植民地に残った文化遺産

—台湾大学所蔵「田中文庫」について

現代中国学部助教授　黄　　英　哲

ドイツの文化史家で文芸理論家でもあるヴァルター・ベンヤミン（1892～1940）に、蒐集という行為について語った講演「蔵書の荷解きをする」(『ヴァルター・ベンヤミン著作集』11所収 晶文社)がある。彼は、「蒐集家の意識のなかでは、一冊一冊の本の一番重要な運命は、自分自身との邂逅、自分自身の蒐集品との邂逅である」といい、自分自身の本の入手方法やいきさつについての体験を追憶している。邂逅の場はオークションであったり、古本屋の店頭であったりさまざまだが、数千冊の蔵書を有していた彼には、それと同じ数の本との記憶があったのだ。

1998年、台湾大学は創立70周年（台湾大学の前身である台北帝国大学は1928年の創立）を祝い、記念行事の一つとして新しい総合図書館を建設し、その落成式を挙行した。総合図書館は、今日の大学図書館が誇る貴重なコレクションの多くが、実は植民地時代の台北帝国大学附属図書館の初代館長であった田中長三郎が努力のたまものであったことを顕彰し、田中個人のコレクションを「田中文庫」として整理し、公開展示した。

田中長三郎は1885年（明治18年）神戸で生まれ、1976年（昭和51年）享年91歳で没した。田中は1907年（明治40年）に東京帝国大学農学部に入学し、熱帯農学と熱帯園芸の著名な学者となった。とりわけ柑橘類の研究では大きな成果を残し、のちには農学博士と理学博士の両方の博士号を得ている。彼は、九州帝国大学農学部講師、宮崎高等農林学校教授兼図書館長を務めた後、1927年に台湾へ渡り、台湾総督府台北高等農林学校教授、台北帝国大学附属農林専門学校教授となった。1928年に台北帝国大学が創設された後は、理農学部「農学・熱帯農学第二講座—園芸学」の教授に就任し、1929年から1934年まで、大学附属図書館の初代館長を兼任した。

彼は館長だった時代、「伊能文庫」、「上田文庫」、「長澤文庫」、「ユアール文庫」、「桃木文庫」、「烏石山房文庫」などの重要コレクションを購入し、これらのコレクションは現在もなお大学附属図書館に大切に保存されている。

彼の蒐集行為として、最も著名な話は、1930年に田中が父田中太七郎の遺産10万ドル（今日の日本円に換算すると７億円）で、イタリアにて開催されたオークションに亡父が創設した神戸銀行の名義で参加し、ドイツの著名な植物学者で蔵書家でもあるオットーアルベルト ユリウス・ペンツィヒ(1856～1929、元ジェノバ大学教授、柑橘植物学・解剖学・病理学の著名学者)の個人の蔵書を落札したことである。このコレクションの中には、ペンツィヒと同時代の著名な植物学者で蔵書家のE.F.ノーテルなどの旧蔵書も含まれており、これらはペンツィヒの死によって売りに出されたのである。コレクションの内容は、植物学や園芸学に関する古典的な名著が多くを占めるほか、その他の、たとえば哲学・歴史学・言語学・文学などのジャンルの貴重書もある。とりわけ価値があるのは、西洋印刷技が発明されたばかりの、揺籃期というべき時期に刊行された四冊の善本書であり、そのうち最も年代が古いのは1480年に出版されたものである。このほか、繊細かつ色鮮やかでみずみずしい手書きの植物図譜も多く伝わっている。植物分類学の草創の時期には、自ら植物の形態を図に写し取

る能力が植物学者として必須の条件だったのである。田中は、個人資産で、個人の専門分野を通した収蔵を行ったのであり、彼は図書館長を務めていた任期中、これらの重要コレクションを編目に分類した。その後さらに彼個人の蔵書を加えたものが、今日の「田中文庫」なのである。

戦後、田中は日本に帰り、東京農業大学教授、大阪府立大学農学部教授などを歴任したが、その個人的な蔵書は、全て台湾大学に残されたままで、総合図書館、研究図書館、園芸学科図書室などに分散していた。50年代、田中は一度台湾大学に戻り、個人の蔵書を回収しようとしたが、国際法の問題があり果たせなかった。一方、台湾大学は1997年になってようやく「田中文庫整理計画」をスタートさせ、翌年、『国立台湾大学図書館田中文庫蔵書目録』が完成した。正式な統計によると「田中文庫」の図書は、中国語と日本語の書籍が163種190冊、英文が464種565冊、その他の十種類以上のヨーロッパの言語による図書が1,819種2,571冊で、その多くは植物学や園芸学に関する古典的な学術書である。「田中文庫」は、現在、新たに建設された総合図書館にすべて集められている。

田中のコレクションは、とりわけ柑橘の分野で、台湾の植物学と園芸学の研究に大きな貢献を果たした。しかし、彼自身の立場や研究・コレクションが植民地後の台湾においてどのように扱いをうけたかということ、さらに近年の再評価については、実はさまざまな歴史や文化の記憶という問題もあって、深く考えさせられるところである。

「田中文庫」は、ペンツィヒ、ノーテル、田中ら蒐集家の記憶、およびポストコロニアル時代の台湾の記憶の総体なのである。

本に親しみだした頃

国際コミュニケーション学部教授　樋　野　芳　雄

「そのお話を読んでもらうとふたりともいつもしんみりしちゃうのね」。父親の布団の両側に2歳下の弟と潜り込んで読んでもらう、『坪田穣治童話集』の「お猿の風船」である。ほかの「善太と三平」シリーズは笑いながら楽しく聞けるのに、この話だけは母親の言うとおりなのだ。それでも何度もせがんで読んでもらった。本とのつきあいをさかのぼっていくと、そんな記憶がよみがえってくる。『ロビンソン・クルーソー』や『グリム童話』も、そうして読んでもらったものだった。

小学校の中学年には漫画に浸った。『少年』『少年画報』『冒険王』などの少年漫画雑誌があることを知ったし、創刊された『少年マガジン』をおばが買ってくれもした。ちょうど、手塚治虫、この4月に亡くなった横山光輝、桑田次郎、武内つなよし、堀江卓、山根赤鬼・青鬼、寺田ヒロオ、ムロ谷ツネ像といった描き手が活躍していた頃である。『月光仮面』や『赤胴鈴之助』『まぼろし探偵』『少年ジェット』『矢車剣之介』のように、テレビ番組やラジオドラマになるものもあった。プロレス漫画もあった。杉浦茂の『猿飛佐助』は飛び切り気に入っていた。

中学校時代には、小学生のときに読んだ『トムソーヤーの冒険』の続編のつもりで『ハックルベリー・フィンの冒険』を読んだりした。「ハックルベリー・フィン」という名前の不思議な響きは、小学校低学年の頃、ラジオで朗読を聞いて心に残っていたような気がする。中学校の卒業も近づく時期、ヘッセの『デミアン』などを読み始めて、読書生活も違った段階に入ることになったろうか。

高校の同級生には読書力のある友人がいた。筑摩書房版の『太宰治全集』を3日で読んでしまう。授業中も机の下で広げるのである。しょっちゅうそういう読み方をしていたから、当然教師たちも気づいていたろうが、やめさせるようなことはなかった。ときどき、わざと当てたりはする。それでも周りの友だちに質問を聞き直して、ちゃんと答えてしまうので、そこでおしまい。当時ノーベル文学賞を受けたショーロホフの『静かなドン』を文庫本で読み出して、そのスピードに小遣いの方が追い付かなくなったと言っていた。わたしが読んだ長いものは『ジャン・クリストフ』だった。

その頃、岩波書店が『100冊の本』という小冊子を出していた。文庫本から選定し、解説を加えた読書案内である。級友たちも持っていて、競争で読んでいる連中もいた。高校生がどれもこれも買うというわけにはいかない。図書室に行けば、岩波文庫が並んでいる。『赤と黒』なども借りてすませた。

高校2年生の春、清水幾太郎『現代思想』が出版され、関連する文章を清水氏が新聞の文化欄に寄せた。これをめぐって坂本義和、林健太郎、加藤周一といった人々の論評が次々に載り、論争状況になった。その年の秋には、サルトルがボーヴォワールとともに来日し、知識人を擁護するという連続講演を行った。新聞が特集面を組んでその内容を報じた。清水幾太郎がその講演内容に批判を加えた。それを市井三郎がさらに批判する。秋も深まってから、『現代思想』を読んでみることにした。岩波全書が辛子色の堅

い表紙に覆われ、箱に収められていた頃の、上下2巻本だった。こうした書物や文章に触れるうちに、時代論と知識人論がない交ぜになって、わたしの中に残った。

やがて、『100冊の本』の延長か、テーマごとに文庫本を組み合わせた『考える人／5つの箱』というのが売り出された。学校の帰りに、都電に乗って岩波に買いに行った。今の信山社ビルが建つ前で、黒いどっしりとした作りの書棚に本が収まっている。奥の会計台後ろの壁には、漱石の筆になるという「岩波書店」の額が掛かっている。わたしの購入した「国家とは何か」という箱には、『三酔人経綸問答』『文明論之概略』『蹇蹇録（けんけんろく）』『君主論』『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など15点がセットになっていた。もちろんすぐに読みこなせたわけではなく、のちのち折に触れて読んでいくことになる。選者は丸山眞男・日高六郎・福田歓一、福田氏が解説を書いていた。

世間という書物、世界という書物を読むというデカルトの言葉と出会ったのも、10代半ばだった。蟷螂の斧であろうとも、自ら斧を振り上げて対象に立ち向かい、世界を読みこなそうとする。そういう姿勢へのあこがれが、どこかに点った。

自分というものを自覚するようになって、無意識のうちにも生きる道を手探りするようになると、読書も生き方の模索の一環になる。何のために本を読むのか。実際に読むときにはいちいち意識してなどいないが、結局は自分をつくるため、自分が自分になっていくためだろう。楽しみとしての読書、調べもののための読書、疑問を解くための読書、業務としての読書。それらが混じり合い、溶け合って、自分にとってなにがしかの糧になる。

研究のためには、あちらからやってくる書物とのふとした出会いを待っているわけにはいかない。必要文献、関連文献は、芋蔓式にでもなんでも、ともかくたぐり寄せ、探し出して読んでいく。

しかし、読書がよろこびでなくなるのは寂しい。自分の内面の声に注意深く耳を傾ける。その渇望に応えてくれそうな本との出会いに向けて自分を開いておく。ものを読むことは習慣化し、仕事ともなっているだけに、かえって心していたいと思う。

大きく言えば、どういうやり方をするにしろ、個人が持つ知の水平線は時代によって制約される。時代が抱える問題と時代が与える書籍群に囲まれて、関心が生まれる。精神が動き始める。動き続けていく中で、好きなもの、気に入ったもの、何か自分に合うもの、それを段々と自覚していく。余分なものは気がつけば削ぎ落としもするし、自ずと剥げ落ちてもいく。制約の中でもとにかく動きを止めないことで、次第に自分になっていく。人とのつながりも、そういう中でしか生まれないのだろう。

愛大のいろいろな場所の中でも、図書館で過ごした時間の累計は、かなりのものになるはずだ。何か特定の調べものをするときや禁帯出図書を利用するとき以外は、図書館の中で図書資料自体を読むことはまずない。ほとんどは図書を探し回ったり、コピーをとったりする時間だった。豊橋図書館所蔵のある本は、昭和13年12月10日発行という奥付を持っている。表紙見返しに墨書がある。「謹呈　著者　近衛公爵閣下」。日付の時点では、贈られた側の近衛文麿は現職の内閣総理大臣である（年が明けて1月4日に総辞職した）。近衛家寄贈本の1冊だった。こういうささやかな「発見」も、図書館を利用し、本に親しむ楽しみのうちである。

図書館で使えるデータベース (2)

新しいデータベースの紹介（2004）

図書館では様々な分野のデータベースを利用できるよう整備しています。今までは海外のデータベースが中心でしたが、2004年度は日本語や中国語のデータベースの整備を進めてきました。

今回は以下の3つのデータベースをご紹介します。

No.	データベース名称	特　　長
1	JapanKnowledge	日本大百科全書や現代用語の基礎知識、日本人名大辞典などの辞事典だけでなく記事やコラムも同時に一括で検索できます。
2	日経 BP 記事検索サービス	経済分野だけでなく、IT や医療、環境、デザインといった幅広い分野の雑誌が収録されています。
3	CNKI 中国学術雑誌全文データベース CCND 中国重要新聞データベース	CNKI は中国で発行された重要雑誌 5,300 点、600 万件以上の記事を収録する中国最大級の雑誌記事全文データベースです。また、CCND は中国で発行された重要新聞 360 種以上を検索できる新聞記事データベースです。

→ http://library.aichi-u.ac.jp/database/index.html

★JapanKnowledge

出版・新聞各社から選りすぐった 20 以上ものコンテンツから総収録項目数約 110 万以上のデータを一括して検索できるデータベースです。レポートや企画書の作成に困ったとき、調査・研究に必要な事柄を調べたいときなどに知識支援ツールとして活用できます。

使い方は、検索窓に探したい検索後を入力し、辞事典、記事、URL、書籍の 4 つに分類された検索ボタンをクリックするだけです。

また、キーワード検索だけでなく、地域別、50 音順などの色々な方法で目的のコンテンツを探す事のできる入り口も設けられています。

使い方

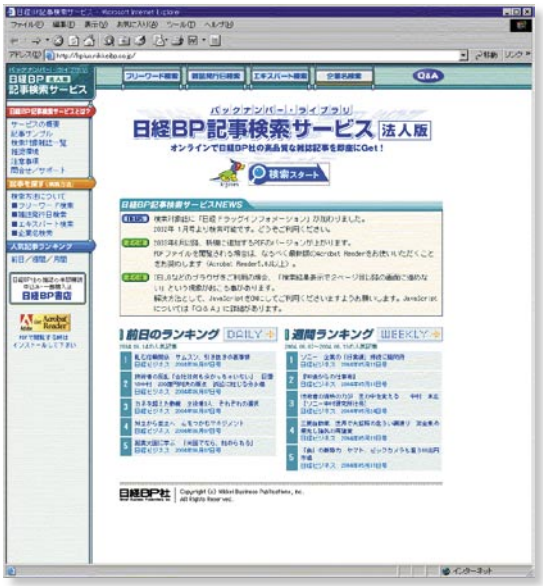
1. http://na.jkn21.com/ へ接続
2. 左上の「**ログイン**」を押す
3. 検索するデータベースを選択
4. 検索キーワードを入力
5. 検索する分類のボタンを押す

★日経 BP 記事検索サービス

さまざまな分野の技術と経営の先端情報を掲載した日経 BP 社の発行する、学術的に価値の高い専門誌約 30 誌の記事を検索することができる雑誌記事全文データベースです。

検索した記事はブラウザ上のテキスト及び図表や写真の入った PDF の２形式で提供されていますので、目的に応じて使い分ける事ができます。

また、記事には企業情報も掲載されているので「企業名検索」を使って企業単位で一挙に収集することで効率的な企業研究ができますので、就職活動にも役立ちます。



使い方

1. http://hplus.nikkeibp.co.jp/ へ接続
2. 中央上の「**検索スタート**」を押す
3. 検索方法を選択
4. 検索キーワードを入力
5. 「検索」ボタンを押す

※検索結果の引用や加工の場合にはテキスト表示を選んで下さい。図表などが必要なときには PDF を表示して下さい。（PDF の表示には Acrobat Reader が必要です）

★ CNKI 中国学術雑誌全文データベース
★ CCND 中国重要新聞データベース

中国で発行された重要雑誌 5,300 点、600 万件以上の記事や重要新聞 360 種以上を検索できる全文データベースです。今年度は 2003 年分の記事を検索できます。

検索には中国語（簡体字または繁体字）が入力できる環境が必要となります。また、全文を見るためには Acrobat Reader 5.0 以上、中国語サポートフォントが必要です。

なお、検索時には画面のコードにあったキーワードの指定が必要です。また、新聞記事検索では最初に分野を選択（画面左下のチェックボックス）する必要がありますので注意してください。使い方の詳細は図書館カウンターまでお尋ね下さい。

使い方

1. データベース一覧から CNKI または CCND を選択
2. 上方の表示タイプを選択する（標準の簡体字の場合はキーワードに中国語を入力する必要があります。日本語で検索する場合は繁体字を選択して下さい。）
3. 左上の検索フィールドに条件を入力し、「検索」ボタンを押す
4. 原文を表示させるときは右上の一覧をクリックし右下の詳細を表示させた後、「PDF 原文下載」をクリック

※お気に入りへの登録や直接アクセスはできません

※繁体字で日本語を入力する場合は旧漢字で入力する必要があります

名古屋図書館

学部推薦図書を展示しました

愛知大学現代中国学部 編

多様な中国を考えるための 123 の扉 !!

複雑な政治構造、経済成長のゆくえ、奥深い伝統文化から最新の流行まで、知ったつもりでおわらずにもっと調べたくなる本。理解を深める“234”の関連情報付きです。

新入生に読んでほしい図書を先生方に選んで頂きました。学生はここを見れば、学部で勉強する内容がわかります。
図書館に来て、是非手にとって見て下さい。
貸出もできますよ。

学生必読の書

初めて法律を学ぶ学生にピッタリ。本書は、講義の受け方、資料の収集方法と読み方、レポート・論文の書き方、ゼミの活用方法、答案の書き方など、法律学習にとって重要だけれども、先生が手取り足取り教えてくれるわけではない事柄を、わかりやすく解説しています。**本書を読めば、法律の学び方が一通りわかります。**本書を使って、実際に法律の勉強をどんどん進めてみましょう。

日本を代表する企業であるトヨタの経営について解説しています。そこでは、「結果ではなくプロセスと人間を重視する」という経営の強みが示されています。これは、利益の売り上げという結果を目標に掲げる経営とは大極に置かれる経営思考です。また本書は、**トヨタ生産方式を十分に理解することができる**とともに、現代企業に求められる管理経営の在り方を考えるのにも役立つでしょう。

東亜同文書院関係目録の作成について

豊橋図書館　成瀬 さよ子

1.『大旅行誌』の目次データを図書館のホームページ上に公開しました。大旅行誌は東亜同文書院生が中国各地を調査旅行に出かけた時、『中国調査報告書』のいわば副産物として毎年単行本としてまとめて出版された日誌です。

第５期生（1907 年）から第 40 期生（1943 年）に至る延べ 2,718 名の名前・タイトル・旅行先から検索可能です。

アドレスは、http://hegel.aichi-u.ac.jp/tools/toa/index.html です。今本文のデジタル化を計画しており、予算が認められれば Web 上から本文を PDF にて読めるようにしたいと考えています。

2. 東亜同文書院関係論文目録を作成しました。

構成は大きく３部門に分けました。① 雑誌論文　② 図書の中に書かれた１論文　③ 東亜同文書院関係出版物一覧 を予定しています。

調査したところあまりに多いため雑誌論文ですら一度に載せる事が出来ませんでした。 次回に継続したいと思います。

凡例

1. 紙面の関係上２ページ以下の論文は、採録していない。
2. 「霞山会報」「東亜同文会連絡月報」「滬友学報」は全て東亜同文会・東亜同文書院関係のパンフレットであるので省略した。同様に「東亜同文会報告」「支那調査報告書」「支那」については東亜同文会の機関誌であるので「論文」は採用したが、東亜同文書院の入学・卒業式・同文会大会などの行事記事についてはここでは割愛した。
3. 収録論文は出版年の古い順とした。時系列的にすることにより社会的に東亜同文書院がどのように捉えられているか少しは明確になると思った。
4. 論文集等いわゆる『図書』として出版されたものは、ここには収録せず ②の図書の部に収録した。
5. 新聞記事は収録対象としていない。
6. 先人が刊行した目録は全く発見できなかったため、参考文献を調べながら、現物からの目次情報を確認しながらの手作業となった。このため見落としや欠号のため未調査資料も多いはずである。なお海外の資料についてはまだほとんど調査に及んでいない。今後改訂版を作成する必要がある。

東亜同文書院関係論文目録　　① 雑誌の部　　（No. 1）

	論　文　名	著　者　名	雑　誌　名	号数	年・月	ページ	請求番号
1	蒙古旅行談(7 月 9 日於鍋島副会長邸)	草 政吉(書院学士)	東亜同文会報告	第 82 回	1906.9	1-30	051:176
2	列国ノ対清貿易策(承前)	東亜同文書院調査	東亜同文会報告	第 85 回	1906.12	1-16	051:176
3	新疆蒙古視察談(明治39年12月12日鍋島副会長邸ニ於テ)	桜木 好孝(書院学士)	東亜同文会報告	第 86 回	1907.1	1-20	051:176
4	新疆蒙古視察談(承前)完	桜木 好孝(書院学士)	東亜同文会報告	第 87 回	1907.2	1-24	051:176
5	新疆旅行談	林出 賢次郎 (書院学士)	東亜同文会報告	第 93 回	1907.8	1-20	051:176
6	滇越瞥見談(10 月 30 日於鍋島会長邸)	江部 淳夫演説 (書院学士)	東亜同文会報告	第 96 回	1907.11	1-19	051:176
7	天津ニ於ケル外人ノ勢力 : 支那内地大調査の一	上海東亜同文書院調査	東亜同文会報告	第 107 回	1908.10	12-26	051:176
8	天津ニ於ケル外人ノ勢力(承前)	上海東亜同文書院調査	東亜同文会報告	第 110 回	1909.1	29-45	051:176
9	論説：満清見聞所感	根津 一	東亜同文会報告	第 105 回	1909.6	1-15	051:176
10	論説：張中堂の薨去に就いて	根津 一	東亜同文会報告	第 119 回	1909.1	1-7	051:176
11	地理紀行：東部蒙古遊記(一)	東亜同文書院錦斉旅行班員	支那 / 東亜同文会	3(5)	1912	46-54	W3:Z441
12	地理紀行：東蒙古遊記(二) *これより東蒙古と記載されている	東亜同文書院錦斉旅行班員	支那 / 東亜同文会	3(6)	1912	43-51	W3:Z441
13	地理紀行：東蒙古遊記(完)	東亜同文書院錦斉旅行班員	支那 / 東亜同文会	3(7)	1912	53-61	W3:Z441
14	地理紀行：滇山蜀水	東亜同文書院雲南四川旅行隊	支那 / 東亜同文会	3(8)	1912	41-48	W3:Z441

	論　文　名	著　者　名	雑　誌　名	号数	年・月	ページ	請求番号
15	地理紀行：滇山蜀水(二)	東亜同文書院雲南四川旅行隊	支那 / 東亜同文会	3(9)	1912	40-47	W3:Z441
16	地理紀行：滇蜀紀行(完)　＊原題のママ	東亜同文書院雲南四川旅行隊	支那 / 東亜同文会	3(11)	1912	40-47	W3:Z441
17	地理紀行：南越遊記	東亜同文書院汕頭広州湾旅行班	支那 / 東亜同文会	3(12)	1912	34-40	W3:Z441
18	江西省林業調査	東亜同文書院旅行隊報告	支那 / 東亜同文会	4(9)	1913.5	57-69	W3:Z441
19	雲南紀行(一)	岳 南	支那 / 東亜同文会	4(17)	1913.9	53-59	W3:Z441
20	雲南紀行(二)	岳 南	支那 / 東亜同文会	4(18)	1913.9	49-54	W3:Z441
21	雲南紀行(三)：思茅旅行記	岳 南	支那 / 東亜同文会	4(19)	1913.10	46-48	W3:Z441
22	雲南紀行(四)：騰越永昌間	岳 南生 ＊ママ	支那 / 東亜同文会	4(20)	1913.10	53-59	W3:Z441
23	雲南紀行(五)：永昌大理間	岳 南生	支那 / 東亜同文会	4(21)	1913.11	54-57	W3:Z441
24	雲南紀行(六)：大理府	岳 南生	支那 / 東亜同文会	4(23)	1913.12	54-56	W3:Z441
25	雲南紀行(七)完	岳 南生	支那 / 東亜同文会	4(24)	1913.12	64-68	W3:Z441
26	旅行班通信：福建通信	東亜同文書院学生旅行隊	支那 / 東亜同文会	5(16)	1914.8	71-76	W3:Z441
27	旅行班通信：直隷通信	東亜同文書院学生旅行隊	支那 / 東亜同文会	5(17)	1914.9	48-57	W3:Z441
28	旅行班通信：四川通信	東亜同文書院学生旅行隊	支那 / 東亜同文会	5(19)	1914.10	62-66	W3:Z441
29	旅行班通信：貴州通信	東亜同文書院学生旅行隊	支那 / 東亜同文会	5(20)	1914.10	54-59	W3:Z441
30	会報：東亜同文会対支貿易誘導部の新設	東亜同文会	支那 / 東亜同文会	5(20)	1914.10	72-73	W3:Z441
31	旅行班通信：貴州通信	東亜同文書院学生旅行隊	支那 / 東亜同文会	5(21)	1914.11	64-70	W3:Z441
32	旅行班通信：貴州通信	東亜同文書院学生旅行隊	支那 / 東亜同文会	5(22)	1914.11	54-56	W3:Z441
33	旅行班通信：貴州省	東亜同文書院学生旅行隊	支那 / 東亜同文会	5(24)	1914.12	68-71	W3:Z441
34	論説：上海東亜同文書院の落成	(大村北涛生)	支那 / 東亜同文会	8(10)	1917.5	1-4	W3:Z441
35	論説：書院出身者諸氏に希望す	森 茂	滬友 / 滬友会	記念号	1917.6	16-22	W3:Z312
36	根津院長旅行略誌	富田 生誌	滬友 / 滬友会	2	1917.10	8-21	記念センター
37	滬友誌私見	世良生	滬友 / 滬友会	4	1918.3	11-13	W3:Z312
38	書院記事：第十六期生支那内地旅行調査予定	東亜同文書院	滬友 / 滬友会	4	1918.3	139-142	W3:Z312
39	書院を思ふ	久保田 正三	滬友 / 滬友会	5	1918.6	33-43	W3:Z312
40	浪漫の書院	呑太	滬友 / 滬友会	5	1918.6	113-127	W3:Z312
41	大旅行を顧みて	呑太	滬友 / 滬友会	7	1918.12	78-87	W3:Z312
42	滬友月旦：新に卒業する学士の方々	成澤 呑太	滬友 / 滬友会	9	1919.6	72-83	W3:Z312
43	瀛寰見聞録(渡日感想録)	朱 紹棠(書院)	滬友 / 滬友会	17	1921.11	52-55	W3:Z312 中国語
44	故副院長石川一先生追悼号	桜木 俊一・青木喬他	滬友 / 滬友会	18	1922.3	1-17	W3:Z312
45	文叢：三年振の上海	呑太生	滬友 / 滬友会	20	1922.12	17-21	W3:Z312
46	論説：書院の反省時代	坂本 義孝	滬友 / 滬友会	24	1924.4	2-11	W3:Z312
47	近衛公の同文書院視察	東亜同文会	支那 / 東亜同文会	17(11)	1926.11	130-132	W3:Z441
48	第三 邦人学校概覧：一．東亜同文書院	林 源三郎	支那研究	18	1930.2	350-356	051:177
49	近衛霞山公の大亜細亜経綸に就いて	白岩 龍平	大亜細亜主義	1(8)	1933.8	42-48	W3:Z218
50	荒尾東方齋先生の訓諭	東亜同文会	支那 / 東亜同文会	24(12)	1933.12	66-67	W3:Z441
51	東亜同文会記事・東亜同文書院講演会	東亜同文会	支那 / 東亜同文会	25(7)	1934.7	67-78	W3:Z441
52	追憶東方齋荒尾先生：二十五周年記念号発刊に就いて	白岩 龍平	支那 / 東亜同文会	25(10)	1934.10	1-8	W3:Z441
53	荒尾先生の追憶：巨人荒尾精を憶ふ / 頭山 満 ・荒尾精氏の想出 / 緒方二三･噫々荒尾先生 / 大内暢三･対支経綸の先駆者荒尾 / 森 清右衛門・東亜経綸の士荒尾先生 / 井戸川辰三・荒尾先生後嗣選定と根津氏の苦心 / 牧田武・貿易研究所の校歌 / 郡嶋忠次郎・若王子時代の荒尾先生 / 井上雅二・若王子の思ひ出 / 遠藤留吉・荒尾先生に引率されて / 大澤大之助・荒尾先生の支那観 / 岡野増次郎		支那 / 東亜同文会	25(10)	1934.10	234-270	W3:Z441
54	東方齋先生の追憶：霞山会館に於ける座談会速記	東亜同文会	支那 / 東亜同文会	25(10)	1934.10	276-292	W3:Z441
55	付録 1：対清意見　2：対清辦妄	荒尾 精	支那 / 東亜同文会	25(10)	1934.10	1-40 1-37	W3:Z441
56	対支先覚者の逸話	中島 眞雄	支那 / 東亜同文会	26(2)	1935.2	80-82	W3:Z441
57	靖亜神社建立記念号：偉人近衛篤麿公の追憶	金杉 英五郎	支那 / 東亜同文会	26 記念号	1935.12	5-11	W3:Z441
58	靖亜神社建立記念号：東亜経綸の先駆者東方齋荒尾精を偲ぶ	伊奈 森太郎	支那 / 東亜同文会	26 記念号	1935.12	12-22	W3:Z441
59	靖亜神社建立記念号：根津山洲先生を憶ふ	小幡 酉吉	支那 / 東亜同文会	26 記念号	1935.12	23-27	W3:Z441
60	支那旅行記前がき	小竹 文夫	支那 / 東亜同文会	27(7)	1936.7	15-21	W3:Z441

	論　文　名	著　者　名	雑　誌　名	号数	年・月	ページ	請求番号
61	西安への旅・山西縦断記・廣東から廣西省桂林南寧へ・廣西より沸領印度支那を経て雲南へ・雲南廣西省境行	東亜同文書院学生	支那 / 東亜同文会	27(7)	1936.7	23-81	W3:Z441
62	東亜同文書院旅行記：江西旅の徒然草	江西省遊歴班	上海 / 上海雑誌社	971	1937.7	64-68	W3:Z420
63	東亜同文書院学生大旅行印象記	小竹 文夫	支那 / 東亜同文会	28(8)	1937.8	42-117	W3:Z441
64	昭和 12 年度東亜同文書院 東亜旅行記	小竹 文夫・書院学生	支那 / 東亜同文会	29(6)	1938.6	121-171	W3:Z441
65	近衛篤麿公：「対支回顧録」より		支那 / 東亜同文会	29(8)	1938.8	166-194	W3:Z441
66	恵州城外に華と散った大亜細亜主義者山田良政氏を憶ふ	(一記者)	上海 / 上海雑誌社	976	1938.11	95-99	W3:Z420
67	伯父山田良政の故地を尋ねて	山田 華生	上海 / 上海雑誌社	976	1938.11	100-103	W3:Z420
68	白岩龍平氏と支那問題	対支功労者伝記編纂会	支那 / 東亜同文会	29(11)	1938.11	135-149	W3:Z441
69	大亜細亜主義の先覚・山田良政	本協会調査部	大亜細亜主義	6(12)	1938.12	41-43	W3:Z218
70	東亜同文書院大学の前途に期待す	長 氏 生	上海 / 上海雑誌社	992	1940.3	14-20	W3:Z420
71	台北に於ける故東方齋荒尾先生顕彰事業	井上 雅二	支那 / 東亜同文会	33(3)	1942.3	118-122	W3:Z441
72	東亜同文会記事	東亜同文会	支那 / 東亜同文会	33(3)	1942.3	174-176	W3:Z441
73	故山洲根津一先生追憶談：根津山洲君追憶のことゞも / 中島眞雄・陸軍大学校時代の根津先生 / 坂西利八郎・山洲先生十七回忌追憶 / 根岸佶・日露戦争時代の根津先生 / 一宮房治郎・根津先生の陰徳一つ / 松本七郎		支那 / 東亜同文会	34(4)	1943.4	91-112	W3:Z441
74	論叢：光輝ある我等の伝統精神(興亜先覚の偉業を想ふ)	津田 静枝	支那 / 東亜同文会	35(1)	1944.1	1-16	W3:Z441
75	対支先覚者追想記：小川平吉先生の思ひ出	猪野毛利栄	支那 / 東亜同文会	35(1)	1944.1	62-65	W3:Z441
76	対支先覚者追想記：故白岩子雲先生を偲びて	萩野元太郎	支那 / 東亜同文会	35(2)	1944.2	45-47	W3:Z441
77	対支先覚者追想記：中島翁の憶出	佐藤安之助	支那 / 東亜同文会	35(3)	1944.3	46-48	W3:Z441
78	学会豫滴：中国實體調査	根岸 佶	一橋論叢	23(5)	1950.5	88-92	330.5:6
79	岸田吟香小傳	大鹿 卓	天地人 / 霞山倶楽部	1	1952. 盛夏	26-33	W5:Z303
80	近衛 篤麿	大鹿 卓	天地人 / 霞山倶楽部	3	1953. 新春	34-42	W5:Z303
81	霞山公を想う	徳川 家正	天地人 / 霞山倶楽部	4	1953. 陽春	10-12	W5:Z303
82	荒尾精小傳	大鹿 卓	天地人 / 霞山倶楽部	5	1953. 朱夏	34-43	W5:Z303
83	近衛霞山公五十年祭記念：霞山公とナショナリズム	小竹 文夫	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	10-12	W5:Z303
84	追想：近衛霞山公の同情心	小笠原 長生	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	14-17	W5:Z303
85	追想：父霞山の思い出	大山 真貴子	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	17-20	W5:Z303
86	追想：霞山公追想記	塩谷 温	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	21-24	W5:Z303
87	追想：霞山公と陽明文庫	新村 出	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	24-27	W5:Z303
88	追想：霞山公卜義和団事件前後	根岸 佶	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	27-28	W5:Z303
89	追想：父子二代	水谷川 忠麿	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	29-30	W5:Z303
90	追想：興亜の先覚篤麿公を憶う	山田 順三郎	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	30-33	W5:Z303
91	近衛家に傳世した文化財：霞山公の五十年祭によせて	田山 方南	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	39-42	W5:Z303
92	霞山公に宛てた劉坤一・張之洞の書簡(満州問題をめぐる日清交渉の一資料)	波多野 太郎 解説	天地人 / 霞山倶楽部	9	1954. 爽緑	52-55	W5:Z303
93	近衛霞山公五十年祭追悼会：談話 一條実孝、岡部長景、阿部 能成、大山 柏、張 燕卿		天地人 / 霞山倶楽部	10	1954. 朱夏	25-29	W5:Z303
94	東南西北：根津先生と酒	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	6	1959.5	16-17	370.5:107
95	東南西北：中国旅行見聞	鈴木 択郎(15 期)	滬友 / 滬友会	6	1959.5	18-19	370.5:107
96	東南西北：根津先生と張作霖	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	7	1959.10	36-38	370.5:107
97	東南西北：書院初期の追憶	山崎 誠一郎(1 期)	滬友 / 滬友会	8	1959.12	27-33	370.5:107
98	東南西北：根津先生と大総統	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	8	1959.12	36-38	370.5:107
99	東南西北：根津先生の追憶	佐野 恭(2 期)	滬友 / 滬友会	9	1960.4	2-3	370.5:107
100	東南西北：根津先生と曹汝霖	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	9	1960.4	3-4	370.5:107
101	荒尾精の教育と理想	魚返 善雄	東亞時論 / 霞山会	2(4)	1960.4	23-26	305:119
102	山田純三郎翁を憶う	波田 博	滬友 / 滬友会	9	1960.4	40-44	370.5:107
103	東南西北：不出家の禅僧達(1)：東方先覚列伝	菊池 貞二(5 期)	滬友 / 滬友会	10	1960.8	2-9	370.5:107
104	東南西北：根津院長と森教頭	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	10	1960.8	10-12	370.5:107
105	東南西北：福井二郎先生のことども	堀 亮三(17 期)	滬友 / 滬友会	10	1960.8	13-16	370.5:107
106	東南西北：書院野球の思い出	立脇 耕一(14 期)	滬友 / 滬友会	11	1961.4	3-7	370.5:107
107	東南西北：不出家の禅僧達(2)東方先覚列伝	菊池 貞二(5 期)	滬友 / 滬友会	11	1961.4	7-12	370.5:107
108	東南西北：根津先生と真島師	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	11	1961.4	15-17	370.5:107
109	東南西北：根津先生の思想への模索	熊野 正平	滬友 / 滬友会	11	1961.4	18-23	370.5:107
110	東南西北：不出家の禅僧達(3)東方先覚列伝 荒尾東方斎	菊池 貞二(5 期)	滬友 / 滬友会	12	1961.9	3-7	370.5:107
111	東南西北：東方斎荒尾精先生の思い出	牧野 虎次	滬友 / 滬友会	12	1961.9	7-9	370.5:107

	論　文　名	著　者　名	雑　誌　名	号数	年・月	ページ	請求番号
112	東南西北：根津先生の思い出	浜田 増人(10 期)	滬友 / 滬友会	12	1961.9	10-12	370.5:107
113	東南西北：根津先生と三崎山	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	12	1961.9	12-13	370.5:107
114	東南西北：山洲根津一先生の祭典に参列して追憶を談る	荒井 金造	滬友 / 滬友会	12	1961.9	13-16	370.5:107
115	東南西北：不出家の禅僧達(3)東方先覚列伝 荒尾東方斎(続)	菊池 貞二(5 期)	滬友 / 滬友会	13	1962.7	3-7	370.5:107
116	東南西北：根津先生と琉球と私	佐々木 微笑(11 期)	滬友 / 滬友会	13	1962.7	15-17	370.5:107
117	東南西北：根津先生と塚崎大先輩	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	13	1962.7	17-19	370.5:107
118	東南西北：殉難経とその行者 九烈士面影 山崎羔三郎君	菊池 貞二	滬友 / 滬友会	14	1962.11	2-7	370.5:107
119	東南西北：上海に於ける最後の同窓会	湯浅 之夫(22 期)	滬友 / 滬友会	14	1962.11	22-25	370.5:107
120	東亜関係諸団体考古記(3)：[日清貿易研究所]	六角 恒広	東亞時論	5(4)	1963.4	16-19	305:119
121	東亜関係諸団体考古記(4)：[東亜同文会]	六角 恒広	東亞時論	5(4)	1963.4	11-14	305:119
122	東南西北：殉難経とその行者 九烈士面影(2)石川伍一君・藤島武彦君	菊池 貞二(5 期)	滬友 / 滬友会	15	1963.10	7-13	370.5:107
123	東南西北：根津先生と鶏冠山	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	15	1963.10	15-17	370.5:107
124	東南西北：殉難経とその行者 九烈士面影(3)楠内友次郎君その他	菊池 貞二(5 期)	滬友 / 滬友会	16	1964.3	5-19	370.5:107
125	東南西北：根津先生と鎮江山	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	16	1964.3	23-24	370.5:107
126	日清貿易研究所の性格とその業績：わが国の組織的な中国問題研究の第一歩	野間 清	歴史評論	167	1964.7	68-77	205:20
127	東南西北：蒼茫七十年 東方先覚列伝(4)	菊池 貞二(5 期)	滬友 / 滬友会	17	1964.9	4-30	370.5:107
128	東南西北：根津先生と其の秘書(国士宇治田直義君)	富田 寿男(13 期)	滬友 / 滬友会	17	1964.9	46-49	370.5:107
129	東南西北：小竹先生との思い出	草 平(33 期)	滬友 / 滬友会	17	1964.9	57-60	370.5:107
130	東南西北：わがはたちの日 中国で過ごした激動の時代	大城 立裕	滬友 / 滬友会	17	1964.9	60-61	370.5:107
131	東南西北：蒼茫七十年 東方先覚列伝(5)	菊池 貞二(5 期)	滬友 / 滬友会	18	1965.3	4-30	370.5:107
132	東亜同文会と東亜同文書院	竹内 好	中国 / 中国の会	21	1965.8	7-22	051:171
133	岸田吟香の「呉淞日記」：慶應三年正月の上海	岸田 鶴之助	中国 / 中国の会	24	1965.11	5-16	051:171
134	家塾・同文書院・民報社：日本に生きる一中国人の回想	孫伯醇	中国 / 中国の会	30	1966.5	24-33	051:171
135	東南西北：真島先生と赫司克而路(ハスケルロ)校舎の思出	鎌田 政国(14 期)	滬友 / 滬友会	24	1968.7	6-9	370.5:107
136	東南西北：「中日大辞典」について	大矢 信彦(16 期)	滬友 / 滬友会	25	1968.12	5-8	370.5:107
137	東南西北：書院の想い出	十枝 勝(19 期)	滬友 / 滬友会	25	1968.12	9-12	370.5:107
138	山洲根津先生傳：自叙伝(ニ)		滬友 / 滬友会	25	1968.12	36-43	370.5:107
139	外務省日中関係資料の発掘：近衛篤麿日記を読みて(上)	河村 一夫	季刊東亞 / 霞山会東亜学院	105	1968.12	87-101	305:63
140	外務省日中関係資料の発掘：近衛篤麿日記を読みて(中)	河村 一夫	季刊東亞 / 霞山会東亜学院	108	1969.9	86-95	305:63
141	近衛霞山の人間と思想：東亜保全政策の理想	葦津 珍彦	霞山 / 霞山会	30	1969.10	1-8	W5:Z257
142	外務省日中関係資料の発掘：近衛篤麿日記を読みて(下)	河村 一夫	季刊東亞 / 霞山会東亜学院	109	1970.2	94-108	305:63
143	根津山洲の侠客学校	毛呂 清輝	霞山 / 霞山会	40	1970.9	56-57	W5:Z257
144	東亜学院の躍進と大陸えの郷愁	鎌田 政国(14 期)	滬友 / 滬友会	30	1971.7	8-20	記念センター
145	荒尾根津両先生の教育と理想：附(1)東亜同文会の歴史(2)東亜同文書院とその卒業生	魚返 善雄	滬友 / 滬友会	付録	1971.8	1-20	370.5:107
146	中日大辞典の思い出	鈴木 拓郎(15 期)	滬友 / 滬友会	32	1972.11	37-39	記念センター
147	“山田良政先生之碑”について	鈴木 拓郎(15 期)	滬友 / 滬友会	33	1973.7	73-75	記念センター
148	恵州の塩：孫文革命に一身を捧げた山田良政の熱血の生涯	都築 七郎	日本及日本人	1519	1973.9	189-197	
149	東亜保全の構想：東方斎・山洲両先覚の達見	滬友会	滬友 / 滬友会	34	1973.12	1-10	記念センター
150	日中関係史 6：東亜同文会と同文滬報(上)	中下 正治	季刊現代中国	9	1974. 春	80-97	305:66
151	日中関係史 7：東亜同文会と同文滬報(下)	中下 正治	季刊現代中国	10	1974. 夏	90-105	305:66
152	大旅行誌に憑かれて(上)	笠坊 乙彦(38 期)	滬友 / 滬友会	36	1975.3	52-57	記念センター
153	書院の講師から上海工部局の参事会員へ	岡本 乙一	滬友 / 滬友会	36	1975.3	75-80	記念センター
154	大旅行誌に憑かれて(中)	笠坊 乙彦(38 期)	滬友 / 滬友会	37	1975.10	45-51	記念センター
155	山洲根津先生特集		滬友 / 滬友会	38	1976.3	1-51	記念センター
156	大旅行誌に憑かれて(下)	笠坊 乙彦(38 期)	滬友 / 滬友会	38	1976.3	69-73	記念センター
157	大旅行誌と支那省別全誌	吉本 仁(22 期)	滬友 / 滬友会	38	1976.3	73-76	記念センター
158	「米中準同盟」と「東亜保全策」：東亜同文会の初期の活動に寄せて	江頭 数馬(44 期予)	滬友 / 滬友会	39	1976.9	16-23	記念センター
159	特集忘れられた戦中派幻の名門校 その 1：東亜同文書院 - 大陸を追われた人々 敗戦までの 46 年間上海に学んだ学生たちは	虹橋 海亮	創：月刊総合雑誌ツクル		1977.8	130-140	

	論　文　名	著　者　名	雑　誌　名	号数	年・月	ページ	請求番号
160	「書院廃校・愛大創立」当時の回想	本間 喜一(口述)	滬友 / 滬友会	41	1978.1	45-58、92	記念センター
161	七十年・旧き記憶のあやどり	石崎 広治郎(2 期)	滬友 / 滬友会	41	1978.1	73-77	記念センター
162	東亜同文会と東亜同文書院：その成立事情、性格および活動	大森 史子	アジア経済	19(6)	1978.6	76-92	330.5:55
163	東亞同文会の活動と清末の情勢(上)	江頭 数馬	東亜 / 霞山会	140	1979.2	9-20	305:86
164	東亞同文会の活動と清末の情勢(下)	江頭 数馬	東亜 / 霞山会	141	1979.3	56-65	305:86
165	東亜同文書院の軌跡と役割：「根津精神」の究明	森 時彦	歴史公論	5(4)	1979.4	46-52	205:46
166	上海時代の思い出(最終回)	岩井 英一(18 期)	滬友 / 滬友会	44	1979.12	47-73	370.5:107
167	大内暢三先生略伝	遠藤 進(28 期)	滬友 / 滬友会	45	1980.5	9-32	370.5:107
168	魯迅の講演	蔵居 良造(28 期)	滬友 / 滬友会	45	1980.5	33-36	370.5:107
169	「随想」京劇と書院	雪本 新吉(31 期)	滬友 / 滬友会	45	1980.5	37-39	370.5:107
170	ブラジルの大地にはばたくサムライ：戦後移住の書院児	上野 宏(28 期)	滬友 / 滬友会	45	1980.5	40-42	370.5:107
171	大内暢三先生略伝(2)	遠藤 進(28 期)	滬友 / 滬友会	46	1980.10	22-34	370.5:107
172	魯迅の華語特別講義に想う	鈴木 拓郎(書院教授)	滬友 / 滬友会	46	1980.10	35-36	370.5:107
173	書院生活雑感	宮下 忠雄(書院教授)	滬友 / 滬友会	46	1980.10	37-38	370.5:107
174	東亜同文書院と私	春宮 千鉄(書院教授)	滬友 / 滬友会	46	1980.10	39-40	370.5:107
175	寮歌「長江の水」に想う	大矢 信彦(16 期)	滬友 / 滬友会	47	1981.6	24-26	370.5:107
176	日清秘話：向野堅一従軍日記	向野堅一	滬友 / 滬友会	47	1981.6	38-60	370.5:107
177	戦争に消えた友の足跡	春名 和雄(36 期)	滬友 / 滬友会	49	1982.1	41-44	370.5:107
178	孫文と東亜同文会	蔵居 良造	東亜 / 財団法人霞山会	177	1982.3	29-34	305:86
179	上海で異色の人材を輩出した、東亜同文書院の栄光と悲哀：発行された「大学史」が語る日中関係裏面史		週刊朝日	87(32)	1982.7.23	132-135	
180	ある悲運の「中国語大辞典」：熊野正平編	山本 潔	滬友 / 滬友会	50	1983.5	25-31	370.5:107
181	東北大学の故野崎駿平教授：書院系教授の古武士的偉材	菅野 俊作(41 期)	滬友 / 滬友会	50	1983.5	35-38	370.5:107
182	「根津先生宅址」と「愚庵終焉之地」碑	加藤 誠一(31 期)	滬友 / 滬友会	51	1983.11	78-81	370.5:107
183	日本通訊 “東亜同文書院”	NHK ラジオ日本	滬友 / 滬友会	52	1984.4	36-46	370.5:107
184	資料 荒尾・菅井・西南の役	岡崎 朝彦	滬友 / 滬友会	52	1984.4	47-51	370.5:107
185	山洲根津先生の禅道	加藤 誠一(31 期)	滬友 / 滬友会	54	1985.5	52-57	370.5:107
186	山洲根津先生の禅道(追記)	加藤 誠一(31 期)	滬友 / 滬友会	55	1986.2	49-52	370.5:107
187	愛知大学霞山文庫 上	池上 貞一	同朋(同朋舎)	98	1986.8	5-7	
188	東亜同文書院の中国語教育	六角 恒廣	早稲田商学	318	1986.8	155-191	670.5:12
189	愛知大学霞山文庫 下	池上 貞一	同朋(同朋舎)	100	1986.9	11-13	
190	書評「東亜同文書院大学史：創立 80 周年記念誌」滬友会大学史編纂委員会	Douglas R. Reynolds	アジア研究	33(2)	1986.10	110-115	国研所蔵英文書評
191	Chinese Area Studies in Prewar China: Japan's Toa Dobun Shoin in Shanghai, 1900-1945	Douglas R. Reynolds	Journal of Asian Studies	45(5)	1986.11	1-26	e-journal
192	A Golden Decade Forgotten: Japan-China Relations, 1898-1907	Douglas R. Reynolds	The Transactions of the Asiatic Society of Japan. Ser. 4	2	1987	93-153	名 Z30:13-4
193	中国・福建省ノート：東亜同文書院学生の「旅行日記」記録の分析との関連で	藤田 佳久	愛知大学国際問題研究所紀要	84	1987.7	1-62	305:23
194	日中関係史研究の新しい波：荒尾精と東亜同文書院の再評価	衛藤 瀋吉(亜細亜大学学長)	滬友 / 滬友会	56	1987.10	12-13	370.5:107
195	アメリカ人の目から見た東亜同文書院大学史・創立八十周年記念誌	D. R. レーノルド著 森谷 利彦訳(43 期)	滬友 / 滬友会	56	1987.10	14-15	370.5:107
196	東亜同文書院上海調査報告書目次	谷 光隆	滬友 / 滬友会	56	1987.10	39-43	370.5:107
197	東亜同文会和三井財閥	中村 哲夫	神戸学院大学教養部紀要	24	1988.3	19-24	
198	靖亜論：武道義道兄を偲ぶ	斉藤 洲臣(35 期)	滬友 / 滬友会	57	1988.10	32-37	記念センター
199	書院文化史の願い	大城 立裕(44 期)	滬友 / 滬友会	57	1988.10	37-41	記念センター
200	随筆：古住今来：東亜同文書院のこと	大石 明信	滬友 / 滬友会	57	1988.10	71-73	記念センター
201	岸田吟香書簡	中村 義	辛亥革命研究 / 辛亥革命研究会	8	1988.12	73-78	国研
202	東亜同文書院 上海調査報告書 1. 上海に於ける朝鮮人 2. 上海調査報告書目次	谷 光隆 編	愛知大学国際問題研究所紀要	88 特集号	1989.3	1-202	305:23
203	東亜同文書院生の中国調査旅行コースについて	藤田 佳久	愛知大学国際問題研究所紀要	90	1989.12	1-74	305:23
204	1900-1945 上海的日本東亜同文書院	董 超文	档案与歴史	1	1990	72-75	中国語
205	戦前の日中文化摩擦から何を学ぶべきか：「東亜同文会の中国人教育事業」等を読んで	熊 達雲	国際教育研究(東京学芸大学)	10	1990.3	25-33	370.5:93
206	同文書院における中国語教育の独自性	石田 武雄(26 期)	滬友 / 滬友会	58	1990.5	43-46	記念センター

	論　文　名	著　者　名	雑　誌　名	号数	年・月	ページ	請求番号
207	上海回顧	笠坊 乙彦(38 期)	滬友 / 滬友会	58	1990.5	76-84	記念センター
208	大旅行誌雑感	藤岡 瑛	滬友 / 滬友会	58	1990.5	84-86	記念センター
209	日清貿易研究所 大川愛次郎氏と日清、日露、シベリア戦役	山本 隆(37 期)	滬友 / 滬友会	58	1990.5	92-95	記念センター
210	所蔵コレクション紹介(1)霞山文庫	谷 光隆 (愛知大学教授)	韋編 (愛知大学図書館報)	1	1990.6	2-4	所蔵あり
211	『蘭州紀要』に寄せて：東亜同文書院学生の中国調査旅行プランへの原点と漢口楽善堂	藤田 佳久	愛知大学国際問題研究所紀要	91	1990.6	1-56	305:23
212	東亜同文書院 香薬調査報告書 1. 支那の阿片調査 2. 香薬調査報告書目次	谷 光隆 編	愛知大学国際問題研究所紀要	93 特集号	1991.3	1-190	305:23
213	「資料」山西省ニ於ケル村政ノ研究：東亜同文書院『支那調査報告書』	谷 光隆 (愛知大学教授)	愛知大学文学論叢	96	1991. 3	105-124	905:4
214	「東亜同文書院の群像」雑感	栗田 尚弥	滬友 / 滬友会	59	1991.4	42-45	記念センター
215	東亜同文書院大学に思う	江頭 数馬(44 期予)	滬友 / 滬友会	59	1991.4	45-48	記念センター
216	所感	金子 憲良	滬友 / 滬友会	59	1991.4	48-52	記念センター
217	東亜同文書院と愛知大学の関係：愛知大学創設の背景と理念	大野 一石(46 期)	滬友 / 滬友会	59	1991.4	53-59	記念センター
218	波多野養作の中国・西域踏査旅行について：東亜同文書院の中国調査旅行 実施への契機となった踏査旅行記録から	藤田 佳久	愛知大学国際問題研究所紀要	94	1991.5	1-81	305:23
219	所蔵コレクションを読む：東亜同文書院支那調査報告書	藤田 佳久 (愛知大学教授)	韋編 (愛知大学図書館報)	3	1991.6	2-3	所蔵あり
220	産業革命初期の日中貿易：日清貿易研究所に関連して	村上 勝彦	東京経大会誌	174	1992.1	63-95	330.6:40
221	『東亜同文書院』資料を尋ねて	後藤 峰春 (愛知大学大学院)	韋編 (愛知大学図書館報)	5	1992.6	8-9	所蔵あり
222	孫文・山田良政・純三郎関係資料について	今泉 潤太郎 藤田 佳久	愛知大学国際問題研究所紀要	97 日中復交 20 周年記念特集号	1992.9	413-513	305:23
223	山田兄弟の遺族、孫文関係の資料を愛知大学に寄託	藤田 佳久	月刊 しにか	3(10)	1992.10	128-129	805:99
224	東亜同文書院『支那調査報告書』について	谷 光隆	汲古 / 汲古書院	22	1992.11	46-52	郷 205:43
225	北京市の図書館と『東亜同文書院』関係資料	藤森 猛 (愛知大学大学院)	韋編 (愛知大学図書館報)	6	1992.12	12-13	所蔵あり
226	愛知大学創設の蔵書(続)：図書館のルーツ	大野 一石 (愛知大学職員)	韋編 (愛知大学図書館報)	8	1993.1	6-7	所蔵あり
227	波多野養作の「西域地方事情」ノート：中国・西域踏査旅行報告の付論から	藤田 佳久	愛知大学国際問題研究所紀要	98	1993.2	1-54	305:23
228	愛知大学創設の蔵書：図書館のルーツ	大野 一石 (愛知大学職員)	韋編 (愛知大学図書館報)	7	1993.6	4-5	所蔵あり
229	日清貿易研究所の教育理想	鈴木 健一	歴史学と歴史教育	45	1993.7	1-12	
230	愛知大学の原点は東亜同文書院大学：その建学精神の継承と発展	小崎 昌業 (元在ルーマニア特命全権大使)	東亜同文書院大学と愛知大学	1	1993.10	14-29	370.5:140-2
231	私記：東亜同文書院大学と愛知大学	釜井 卓三 (元読売新聞社)	東亜同文書院大学と愛知大学	1	1993.10	30-43	370.5:140-2
232	「幻」ではない東亜同文書院と東亜同文書院大学	藤田 佳久 (愛知大学教授)	東亜同文書院大学と愛知大学	1	1993.10	50-75	370.5:140-2
233	見逃せない地方有力大学 愛知大学 旧東亜同文書院の伝統を受け継ぎ、中国はじめ英米大学との交流を広げる	海野 市三	財界	41(26)	1993.10.	臨増 134-135	
234	孫中山和東亜同文会	中村 哲夫 謝 俊美 訳	歴史教学問題	2	1994	34-37、56	中国語
235	上海にあった日本の学校：東亜同文書院 (朝日新聞連載「太平洋戦争五十年 - 戦争と人々第 28 部より)	毛井 正勝 (朝日新聞編集委員)	愛知大学東亜同文書院大学記念センター報	創刊号	1994.3	20-35	370.5:140
236	中国・辛亥革命から 80 年：本学へ孫文関係資料寄託される	藤田 佳久 (愛知大学教授)	愛知大学東亜同文書院大学記念センター報	創刊号	1994.3	36-39	370.5:140
237	東亜同文書院記念センターの発足に寄せて：愛知大学の建学精神の再構築	大野 一石 (愛知大学職員)	愛知大学東亜同文書院大学記念センター報	創刊号	1994.3	46-53	370.5:140
238	上海の虹橋路にあった外務省管轄の高専：東亜同文書院（わが母校）	春名 和雄	週刊文春	36(14)	1994.4.7	145	所蔵あり
239	「馬馬虎虎」の一語：同文書院終焉前後の思い出	松山 昭治 (元中部日本放送)	東亜同文書院大学と愛知大学	2	1994.12	4-19	370.5:140-2
240	不幸な時代の青春の記録：東亜同文書院生と反戦運動	伊藤 喜久蔵 (中日新聞・東京新聞論説委員)	東亜同文書院大学と愛知大学	2	1994.12	20-43	370.5:140-2
241	祖父、大内暢三の肖像：日中戦争開始時の東亜同文書院院長	川原 寅男 (元 NHK アジア部長)	東亜同文書院大学と愛知大学	2	1994.12	44-59	370.5:140-2

以降、次回に続く

山崎文庫（安城市文化センター内）

文学部助教授　神　谷　　智

安城市は「日本のデンマーク」と呼ばれています。

デンマークは、19世紀半ばにプロシアやオーストリアとの戦争に敗れ、国内でもっとも肥沃な土地であったシュレスヴィヒ・ホルスタイン二州を割譲され、国内は「国は小さく、民は尠なく、而して残りし土地に荒漠多し」（内村鑑三『デンマルクの話』）という状況に陥りました。にもかかわらずデンマークの人々は「外に失いし所のものを内において取り返す」（同）という精神のもと、不毛の土地を開拓し、農業復興を遂げていきました。この内村の紹介もあってわが国では、デンマークという国に農業振興国というイメージが重ねられるようになりました。

安城を中心とした碧海台地は、江戸時代までは水利が不便で、未開墾の土地が多い場所でした。そこに「都築弥厚」で有名な明治用水が、その名の通り明治初年に引かれると、農地が次々と開墾されていきました。さらに大正末年から昭和初期にかけて、稲作のほか蔬菜・養鶏なども行う多角経営型農業や、（現代の農協に繋がる）産業組合が導入され、国内有数の農業先進地帯となりました。この形態もデンマークの農業に似ていました。このように農業振興と先進的農業形態の二重の意味で安城は、「日本のデンマーク」と呼ばれるようになったのです。

安城が「日本のデンマーク」＝日本農業の先進地帯となるにおいては、山崎延吉が果たした役割を見過ごすことはできません。山崎は石川県金沢生まれで、東京帝国大学農科大学（現東京大学農学部）を卒業、福島・大阪で教鞭をとっていましたが、1905（明治38）年に開校されたばかりの安城農林学校（現安城農業高校）の初代校長に、弱冠28歳の若さで就任しました。地元からの支援もあって全国屈指の農業学校に育てあげるとともに、県の農務課長および農事試験所長・農事講習所長などを兼任し、この地域の農業行政・研究・教育の一本化をはかり、安城を中心として農業振興に貢献しました。また『農村自治の研究』など多数の著作を刊行し、農業生産の発展は、農村の改良、すなわち農村の自治を高めることであると主張しました。このようにして、安城は優良農村として全国に知れ渡っていったのです。

その後、三重県の石薬師村（現鈴鹿市）に「我農園」という名の農場を開き、そこに「神風義塾」という農民道場を開設します。この塾教育のために図書館＝文庫の必要性が考えられました。1935（昭和10）年、高松宮殿下より有栖川厚生資金助成を受け、図書館＝有高恩文庫が建設され、それまでに山崎が塊集した蔵書約12,870冊が収められました。敗戦後神風義塾は閉鎖されたのですが、1955（昭和30）年安城市に山崎を顕彰する「山崎頌徳館」が建てられたのを機に、ここへ蔵書が移管されました。その後この頌徳館も老朽化のため取り壊されることになり、1981（昭和56）年安城文化センター内に「山崎文庫」としてこの蔵書が再移管されました。

蔵書は、明治後期から昭和初期までの農業関係書が圧倒的に多く、この時期の農業や農政を考えるに必要な書籍が揃っています。このほか当時の思想文学関係の書籍も多くあります。詳しくは、安城市教育委員会から刊行された『山崎文庫図書目録』をご覧ください。

なお、この文化センターには「山崎頌徳館」が所持していた山崎の遺品や関係品を展示する「山崎記念室」もありますので、あわせてご覧にいただければと思います。

所　　在：〒446-0041　安城市桜町17番11号
　　安城市文化センター内
電　　話：0566-76-1515
利用時間：原則水曜日10:00 ～ 16:00
　　（事前に連絡が必要です）
交　　通：JR東海道線安城駅下車、南西へ
　　徒歩約7分、安城市役所北側

編集・発行　愛知大学図書館　2004年6月25日発行　No. 29

■豊橋図書館　〒441-8522　豊橋市町畑町字町畑1－1　☎(0532) 47－4181
■名古屋図書館　〒470-0296　西加茂郡三好町黒笹370　☎(0561) 36－1115
■名古屋車道分館　〒461-8641　名古屋市東区筒井二丁目10－31　☎(052) 937－8116
URL　http://library.aichi-u.ac.jp